

〈PR〉

カラダの 相談室



みなみ堀江クリニック
院長 医学博士 南 和宏さん

第1回

喘息(ぜんそく)

わが国の喘息患者は、約1千万人と聞かれています。喘息は、他の疾患同様に、早期発見し、適切な治療により症状を改善させ、将来的な呼吸機能(肺機能)の低下を防ぐことが重要です。咳が長引く場合、一度は呼吸器専門医の診察を受けることをお勧めします。

長引く咳は喘息の可能性有 呼吸器専門医の受診を推奨

Q 咳が続いています。喘息という病気があると聞いているのですが、どのような病気ですか。

A 喘息は気管支喘息とも呼ばれ、空気の通り道である気道が炎症を起こすことで発症します。症状は咳以外にも「ヒューヒュー、セイセイ」といった喘鳴や呼吸困難、胸苦しさなどがあり、夜から明け方にかけて悪化しやすいことが特徴です。

市販の「咳止め薬」は無効であるところか、安易に咳止めに頼ることで咳の原因が不明になり、原因疾患を見逃すことになりかねません。自己判断せず、早めの受診をお勧めします。

Q なぜ、早めの診察が大切ですか。

A 喘息の場合、放置すると症状が悪化するだけでなく、呼吸機能(肺機能)の低下を来します。

また、咳をきたす疾患は、喘息以外にも、肺がん、肺気腫、肺炎、結核、心不全、副鼻腔炎、逆流性食道炎など多岐に渡ります。背景に潜む疾患を的確に見極め(疾患の鑑別)、治療を行うことが大切です。

呼吸器の疾患を鑑別するため行うことが多いのが、次の3つの検査です。

1つ目は胸部レントゲン検査。肺がんや肺炎、結核などが見つか可能性があります。

2つ目は呼吸機能検査。肺活量や息を吐く力強さといった呼吸機能を調べます。喘息の場合は息を吐く力が弱まることが多く、診断や病状の評価を行うことができます。

3つ目は血液検査。喘息の本態である気道の炎症の原因を調べます。好酸球数の測定やアレルギー体質かどうか、アレルギーの特定などを行います。

Q 治療で大切なことはありますか。

A 喘息診療は専門性が高いため、呼吸器専門医のもとで治療を受けることが大切です。喘息の原因である気道の炎症を長期間放置すると、気道が硬く変化し元へ戻らなくなり(気道のリモテリング)、呼吸機能の低下をきたします。

喘息治療の第一選択薬は、吸入ステロイドです。吸入ステロイドで、気道の炎症を抑え症状を改善させつつ、気道のリモテリングを防ぎます。正しく使用すれば全身の副作用は減少に起こりませんので、ご安心ください。1日1回の吸入で24時間効果が持続する吸入薬もありますので、日々の生活に支障をきたすことなく治療を続けることができます。気管支拡張薬を併用することで症状や、呼吸機能の改善も見込めます。

喘息は根治が難しいのが現状です。咳が止まっても気道の炎症はくすぶっていることが多く、ウイルス感染や花粉、たばこの煙、天候の変化などで症状が再発し、気道のリモテリングが進行、呼吸機能低下に繋がります。「咳が止まる」「治療・根治」と考え自己判断で吸入治療を止める患者さんもあります。可能な限り専門医の治療計画に則ってください。

喘息治療の目的は、日々の症状のコントロールと、将来的な呼吸機能の低下を防ぐことです。呼吸器専門医は患者さん毎の病状・病態を考え治療法を選択しています(個別化医療)。

長引く咳でお困りの方は、呼吸器専門医の診察を受けて頂くことをお勧めします。(次回は肺気腫/COPD・禁煙外来)



☆みなみ堀江クリニック 大阪府西区南堀江4の10の14
Tel.06・65331・3730

みなみ・かずひろ 神戸大学医学部卒。神戸市立医療センター中央市民病院、神戸大学医学部附属病院、住友病院副院長などを経て2023年5月開院。
日本呼吸器学会呼吸器専門医、日本呼吸器外科学会呼吸器外科専門医、日本外科学会外科専門医、日本がん治療認定医機構がん治療認定医、難病指定医、大阪市身体障害者福祉法指定医。

〈企画・制作〉産経新聞社メディア営業局